

入塾試験問題 例

小3 (新小4) **sirius**

入塾試験について
学習アドバイス
解答解説
学習の手引き



Method for Essential Capability & Creativity

入塾試験の出題方針と難易度

算数

「塾に通うのはこれから」であることを前提として作問しますので、特別な勉強をしていなければ解けないような問題は出題しませんが、小学校で学習する内容よりは難しいです。全国統一小学生テストを受験されている方が多くいらっしゃいますが、おおむね同じ難易度です。全国統一小学生テストに出題されている問題のうち、かなり基礎的なレベルとかなり応用的なレベルは、選抜に適さないので出題しません。全国統一小学生テストで6～7割くらい得点できれば力としては十分で、あとはその日の出来次第だと思います。

重視しているのは「正確に計算できること」と「問題の意図を把握できること」、そして応用力として「与えられた条件に基づいてその場で試行錯誤してみること（≒書きながら考えること）」です。解法を知っていなければ解けないような問題を出題することはなく、〇〇算というような、いわゆる特殊算は出題しません。もちろん入塾後はそのような問題も学習することになりますが、入塾前から解法を知っていることを求めています。

図形問題については、3年生までに小学校で習っていることはわずかなので、面積や角度を求める問題は出題していません。図形分野を出題する場合は、積み上げた立方体の数を数えるなど、その場で考えられるやさしめの問題を出題します。

国語

1000字前後の読解問題を2題出題します。受験されている方が多くいらっしゃる全国統一小学生テストでは、2000字を超える物語文が1題出題されることが多く、3年生にとってはかなりの長さですが、入塾試験はその半分くらいの字数です。

重視しているのは、「文章を読み内容をとらえることができるか」で、語句知識も出題しますが、中心になるのは読解問題です。当てはまる接続語を選ぶ問題や、指示語の指す内容を考える問題、行動や気持ちの理由を考える問題など、ごく一般的な国語の読解問題です。もっともふさわしいものを選ぶ選択問題を何問か出題しますが、選択肢の一部分から判断したり、微妙な言い回しのちがいを判断したりするような問題は出題せず、本文の内容をとらえることができれば迷わず解答できるような問題です。記述問題を出題する場合は、ほとんどが書き抜き問題で、自分の言葉でまとめる必要があるような難しい記述問題は出題しません。

合格基準について

試験は算国各 40 分、各 100 点満点で行い、合否は算数と国語の合計で判定します。実施回によりますが、140 点～150 点が合格基準になることが多いです。どちらかの科目が極端に悪い場合に不合格になる、いわゆる足切りはありませんが、合格基準が 7 割程度ですから、算数と国語のどちらかが極端に悪いとなかなか基準点に達しません。

理解度をみるのが目的ですので、採点は厳しくありません。たとえば、国語の書き抜き問題で、「遠くを見ようと目をこらした」と書き抜くべき問題で「遠くをみようとめをこらした」とひらがなで書いてしまった場合、本来は書き抜いていないのでバツですが、設問に対して答えることはできていると判断します。漢字の書き取りでも、「とめ・はね・はらい」でバツにすることはありません（入塾後は厳しく指導します）。なお、字が雑な場合も、読めれば正解にしますが、判別できない場合は正解にできませんので丁寧に書くことを心がけてください。

募集時期について

この問題例は、12 月～3 月にかけて行う **sirius** 新 4 年生入塾試験の問題例で、3 年生までの小学校での学習範囲をもとに作問しています。**sirius** の授業は新 4 年生の 2 月初旬より始まりますので、4 月以降の難易度は今回の試験とは異なり、小学校の学習内容よりもかなり難しくなります。**sirius** コースへの入塾をご希望の方は、極力、小学 3 年生 11 月の全国統一小学生テストおよび 12 月～3 月の新年度募集にご参加ください。

学習アドバイス

算数

計算力と読解力を養っておくことが最低限必要です。計算は、方法を知っているということだけでなく、早く正確に計算できなければなりません。計算力は短期間に一気に引き上げるということはできませんので、計算練習を毎日やるのが最良の学習です。日々の計算をはじめるのは早い越したことはありません。毎日取り組む習慣がない場合は、すぐにスタートすることをおすすめします。計算ドリルや百ます計算でも構いませんし、公文式やそろばん教室ならば、計算力を確実に引き上げてくれる上、集中力も身に付くでしょう。塾が始まった後に両立するのが楽でないことを考えると、低学年のうちに通い、ある程度身に付けた上で、4年生以降は塾の学習に切り替えるのがよいと思います。

算数における読解力は、問題の意図を把握できるということです。なるべく多くの経験を積むのが一番の練習ですが、小学校の学習では、どのような計算をすればいいかで迷うケースは多くないと思いますので、書店で小学校の学習レベルより少し難しめの問題集を購入して取り組むのがよいでしょう。次ページを参考にしてください。

国語

読む力が大切です。入塾試験では、本文の内容をとらえることができなければ迷わず解答できるような問題が中心ですから、文章そのものを普通に読むことができればじゅうぶん答えられます。ここでいう「読む」とは、文章の内容をつかむ力ということですが、知らない言葉や表現があったり、経験したことのない場面が描かれていたりすると、子どもには内容をつかむのが難しくなりますので、ある程度の語彙力や、文章を読み解く経験が必要です。

文章に書かれていたことにもとづかず、自分の感覚や推測で答えてしまうケースもありますので、低学年のうちは、親と一緒に読んであげるといことも必要でしょう。状況が思い浮かぶように、気持ちを込めて読んだり、状況について補足や説明をしたり、登場人物の行動に対する疑問や感想を付け加えたり、知らなそうな言葉があったら意味を教えてあげたりしながら一緒に読んであげると効果的です。

文章の内容をつかめないまま答えていそうならば、低学年のうちにじっくりつきあってあげるのがよいと思います。国語の問題は、友情、母子愛、心の成長などを描いた「いい文章」が多いので、丁寧に読んで内容を味わう経験を積みさせてあげるとは子どもの成長を促しますし、きっと国語が好きになると思います。

問題集について

問題集を選ぶ際、子どもへの期待を込めて、到達して欲しいレベルの問題集、つまり難しめの問題集を選びたくなることもあるかもしれませんが、難しすぎるものを選びないようにしてください。できない問題ばかりが並んでいると、子どものやる気が落ちて継続できなかつたり、教え込むばかりになってしまつたりします。半分くらいは正解できるものを選ぶのがおすすめです。迷う場合は2冊購入して取り組みながら様子を見るのもよいでしょう。

意欲がありできそうならば、一つ上の学年の問題集に取り組むのも効果的です。よほどレベルの高いものでなければ取り組めるものも多いと思います。ただし、先取りして学んでおくことは大して重要ではありません。家庭学習でかなり先取りをしたとしても、中学受験のための進度の速い勉強が始まると、すぐにリードはなくなります。計算力のように、土台になる力は後になって確実にいきますが、〇〇算のようなものを先に解けるようにしておく必要はありません。問題集は、先取りするためでなく、思考レベルを引き上げるための材料と考えてください。

学習の進め方

ご家庭で取り組む際は、なるべく保護者の方が一緒についてあげることをおすすめします。4年生以下の子どもで、自分でやって自分で丸付けをして納得して進めるケースはめったにないと思います。できそうならば見守り、できなくて集中が切れそうならば一緒に問題文を読んであげるなど、伴走者がいることで少しずつ力がついていきます。低学年の間は、親が手を差し伸べてマイナスになることはまったくありません。

計算ドリルのように、毎日取り組む学習だと、「毎日〇ページやる」「毎日〇分やる」「〇時になったらやる」のように、約束事を作って守らせようとしがちですが、それでうまく出来ない場合も保護者の方の協力が必要です。もちろん、まじめな性格だったり意欲的な時期だったりして、決めた計画の通りに取り組めるケースもあるでしょうし、それに越したことはありません。でも、小学校低学年では、決めた通りに実行できないことがあるのが普通です。そのような場合は、「決めた通りにやりなさい」「自分で決めたことでしょう」と叱っても、なかなか改善できないこともありますし、嫌々取り組むことになってしまいます。計画通りにはいかないものだなと思いつつ、「そろそろ計算やろうか」と先に机に座ってあげれば、きっと喜んで隣に来るのではないのでしょうか。心配なさらずとも、年齢が上があれば誰でも自立していきますので、まだ難しそうであれば、一緒につきあってあげるのが将来のためになると思います。

算数

解答

- 1 (1) 231 (2) 132 (3) 747 (4) 475
(5) 119 (6) 2397 (7) 200 (8) 105 あまり 3
(9) 56 (10) 112
- 2 (1) 2 km 180 m (2) 1 L 8 dL
(3) 3 kg 350 g (4) 5 時間 10 分
- 3 (1) 70813 (2) 8 はい目 (3) 6 時 22 分 (4) 36 円
(5) 10 人 (6) 5 枚 (7) 7 回目 (8) 0 時 15 分
- 4 (1) 9 種類 (2) 4374
- 5 (1) 4 回で 8 になって終わる (2) $57 \cdot 75$
- 6 (1) ブローチとハンカチ (2) 940 円

配点は、大問 1 で 20 点、大問 2～6 で 100 点です（詳細は非公表）。大問 2～6 のうち 7 割程度を目標に学習してください（入塾試験の合格基準点は回によって異なります）。

解説と学習の手引き

1

(2)のようにたし算と引き算が混ざったときに両方たしてしまったり、(4)のように繰り下がりや 0 の入った数字の計算でミスしてしまったりすることが多いです。ひっ算を用いる場合は問題用紙の余白に書きますが、たてに位をそろえて書くべきところを雑に書いてしまい計算を間違えるケースが見受けられます。(9)(10)の逆算は間違いの多いところで、たとえば(10)のような問題で $28 \div 4 = 7$ と答える間違いが多いです。無意識に「わり切れる計算」をしてしまうのが原因です。出てきた答えを□に当てはめて確かめる習慣をつけて欲しいと思います。

なお、新 4 年生の入塾試験では、たし算と引き算については 4 桁あるいは 5 桁の計算まで出題します。かけ算とわり算は、2 桁の数をかける、1 桁の数でわる計算まで出題します。もし小学校で未習の場合は、あらかじめご家庭で学習しておくようにしてください。

2

長さの単位 (km, m, cm, mm)、重さの単位 (kg, g, mg)、かさの単位 (L, dL, mL)、については、単位を変えたり、たす・引くなど計算したりすることができるように学習してください。時間の単位についても、時間、分、秒をかえることができ、24 時間制と午前・午後の表記について理解している必要があります。

3

文章題問題を数問出題します。この部分で約 50 点あり、このレベルができれば合格点に達すると考えてください。(1)～(4)まではかなり基本的な問題です。(4)は 単価×個数＝代金 ということがわかっていれば簡単ですが、難しく感じる生徒もいるかもしれません。「1 枚 5 円の紙を 6 枚買う」ならばすぐに 30 円とわかるのに、「1 枚 24 円の画用紙を 12 枚買う」になるとできなくなってしまうとすれば、計算力あるいは量的感覚が不足しているのかもしれません。数字を見たときに、大きい(多い)、小さい(少ない)という感覚がなく、単なる記号のように扱ってしまう生徒は少なからずいるものです。「かければいい、わればいい」と計算ばかり考えさせず、全部 1 円玉に置き換えてイメージをつかむように教えてあげるとよいと思います。

(5)や(6)は「やってみる」ということが大切です。(5)は $16-5=11$ 人という間違いが考えられますが、「もし 5 番目と 8 番目だったら、⑤⑥⑦⑧だから間には⑥⑦の 2 人」のように例を作ってみればわかります。(6)も同様で、「もし 1 枚ずつだったら…、もし 2 枚ずつだったら…」とやってみればわかります。よくわからないまま $20\div5$ のように計算してしまうのではなく、「5 円玉と 1 円玉が同じ枚数ずつある」「5 円玉だけの金額の合計は 1 円玉だけのイン額の合計よりも 20 円多い」という問題文をしっかりとイメージすることが大切です。

小学校の問題では、四則計算の延長として文章題問題を学習しますので、「40 円のガムを 7 個買って 500 円玉で支払うとおつりはいくらでしょう」のように、どのような計算をするのかがすぐにわかるような問題が多いと思いますが、入塾試験では、問題文を把握して状況をイメージしたり、自分で試して試行錯誤したりする力を見たいと考えています。なお、(7)は植木算の基本問題ということになりますが、書き出してみればすぐにわかります。〇〇算というような、いわゆる特殊算を入塾前からできることは求めていますので、特殊算の解法を知っていなければ解けないような問題は出題しません。

4

- (1) $20 \cdot 24 \cdot 26 \cdot 40 \cdot 42 \cdot 46 \cdot 60 \cdot 62 \cdot 64$ の 9 種類できます。
(2) $6420 - 2046 = 4374$

単元としては場合の数ということになり、入塾後は、4年生では樹形図、5年生では積の法則を用いてサッと解くことにはなりますが、もちろん、そのような技術を求めているわけではありません。(1)は「4枚のカードのうち2枚のカードをならべて2桁の数をつくる」という状況がイメージでき、ためしに小さい順に書いてみようということをするれば、正解できるはずですが。(2)は2けたのままだと思って $64 - 20$ としてしまう間違いが考えられます。問題文を読み飛ばしてきつと「〇〇という問題だろう」と思い込んでしまうことは非常に多いです。多少の誤字脱字があっても内容を把握できてしまうことで分かる通り、一字一句読むということをしなくても、無意識に修正したり補ったりして内容を把握してしまうからです。問題文の文頭や文末を読み飛ばしてしまったり、数字だけを目で追って言葉の部分を読み飛ばしてしまったりすることが特に多いということを知っていると、ミスを減らしていけると思います。

5

- (1) $77 \rightarrow 49 \rightarrow 36 \rightarrow 18 \rightarrow 8$

したがって、4回で8になって終わります。

- (2) $5 = 1 \times 5$ だから、5になる数は15と51の2つ。

$15 = 3 \times 5$ だから、15になる数は35と53の2つ。51になる数はない。

$35 = 5 \times 7$ だから、35になる数は57と75の2つ。53になる数はない。

以上のように考えて、57か75 $\rightarrow 35 \rightarrow 15 \rightarrow 5$ だったことになります。

(2)は応用問題です。与えられた数字を使って計算していけば答えにたどり着くということだけでなく、答えから逆算して可能性を探る問題で、小学校で学習するレベルよりずいぶん難しいでしょう。もちろん、満点をとらなければならないわけではないので、この問題ができなくても合格点には達します。ですが、このような問題に楽しんで挑戦し、答えが出たときに喜ぶような学習を積んでほしいと思います。

6

- (1) 合計が 2000 円に近くなりそうなものを試してみます。

$$1286 + 743 = 2029 \quad 1286 + 680 = 1966$$

2029の方が2000円に近いので、答えはブローチとハンカチです。

- (2) 最初に持っていた金額は、 $1000 + 500 \times 3 + 100 \times 6 = 3100$ 円

買い物の後に1円玉はないので、2つの品物の合計の1の位は0です。

そのような2つの数は、 $1787 + 743 = 2530$ と $1286 + 874 = 2160$ の2つです。

2530円だと $3100 - 2530 = 570$ 円、2160円だと $3100 - 2160 = 940$ 円残ります。

最後にさいふの中に500円玉、100円玉、10円玉が何枚かずつ入っていますが、

もし570円だと、500円玉と100円玉の両方は入っていないはずですから、

当てはまるのは1286円と874円で2160円買って、940円残っている場合です。

(2)はかなり難しく、大問5(2)と同様、テスト中にはできていなくても構わないレベルの問題です。はじめに持っている金額、品物の金額の合計、残っている金額、硬貨の種類、つかんでいなければならない情報が多くて正解するのは大変でしょう。中学以降の数学では、さまざまなことを文字を使って一般化していき、より難しい問題を解けるように学習していくこととなりますが、中学受験の算数では、もとの数字を類推したり、答えの手がかりになりそうなところを見つけたり、試したり調べたりして正解を絞り込んでいったりすることが主となります。そのようなことを通して数量感覚を養ったり、答えを探すプロセスで思考力を鍛えたり、作問者がこめた狙いを見破ったりしていくことを楽しむのが、受験算数のすばらしいところ、楽しいところだと思います。入塾後の勉強を楽しみにしていきましょう。

国語

解答

- 1 課題プリントから漢字を十問出題します。
- 2 (1) オ (2) ウ (3) エ (4) ア (5) イ
- 3 (1) エ (2) ア (3) ウ
- 4 問一 1 ウ 2 イ 3 エ 4 ア
問二 安雄さんがかぶ 問三 イ 問四 ア 問五 ウ 問六 イ
問七 いつもは子～れるいい人 問八 イ・ウ(くんで) 問九 エ
- 5 問一 1 ア 2 ウ 3 イ 4 エ
問二 ウ 問三 ガラパゴス～ています。
問四 隠れようとした 問五 イ
問六 (1) 成功しなかった (2) ジョージの推定 問七 イ

配点は、大問1で20点、大問2～5で100点です(詳細は非公表)。大問2～5のうち7割程度を目標に学習してください(入塾試験の合格基準点は回によって異なります)。

解説と学習の手引き

- 1
3年生までに小学校で学習した漢字から、漢字の読み・書きの問題を出題します。

- 2 3
語句知識に関する問題です。漢字の部首や画数、慣用句・ことわざ、主語・述語、修飾・被修飾、仮名づかいなどを出題します。特に範囲の指定はありませんし、配点も大きくないので、特別な勉強をする必要はありませんが、日頃の学習の中で知らない言葉が出てきたら覚えていくなど、語彙力を高める意識を持って欲しいと思います。

4

小学生の国語でよくある、同年代の子どもが主人公になっている物語文です。問題例として配布するため、著作権のきれた昔の文章として新見南吉「かぶと虫」から作問しました。戦前に書かれた文章で、現代とは異なる状況や表現がふくまれて、子どもにとっては少し読みにくい部分があると思います。実際の入塾試験ではもう少し読みやすい文章から出題しますが、それでも、今の子どもたちには場面をイメージしにくいことがあるかもしれません。たとえば、八百屋、あぜ道、縁側など、今の子どもたちにはわからない可能性のある言葉が、国語の文章ではしばしば出てきます。言葉の意味が分からなくて情景がイメージできず問題を考えられないということもあるでしょう。日常の中で一般的知識として話してあげることや、国語の問題練習をする中で教えてあげることが国語力につながっていきます。

【問一】 あてはまる言葉は、前後のつながりを考えて選ぶことが大切です。練習になるように、4 か所の穴埋めに対し 6 つの選択肢としましたが、実際の入塾試験ではこのような出し方はしていません。(1)文末が「～にすることができたからです。」になっており、理由を述べていることがわかりますので「それは」があてはまります。(2)「安雄さんにだけ聞こえるような小さな声で呼んだ」と「こんなせまいところでは、そういうわけにはいかなかった」をつなげますので「しかし」があてはまります。(3)「だから」と迷うかもしれませんが、安雄さんがかすかにわらったのは、おじさんの発言が原因なわけではありません。おじさんが言っても言わなくても、安雄さんはもう太郎とは遊べないのです。おじさんの発言に合わせて安雄さんの行動が描かれている場面なので「すると」があてはまります。(4)安雄さんの次の行動につながりますので「そして」があてはまります。

【問二】 傍線①の前にも安雄さんのことが描かれていますが、傍線①の直後の文が「～思ったからです。」となっていますので、すぐに探せたでしょう。はじめの○文字を書きぬく際、単語の区切りと合わずに戸惑ってしまう生徒がいますが、単語の区切りが合わなくても、指示通りの字数を書きぬくのが答え方のルールです。

【問三・問四・問五】 語彙力を問う問題です。国語では、そのときの自分は知らない言葉や表現が出てくることはしばしばあります。ことばを知らなければ、場面を想像したり文脈から考えたりして答えることになります。国語の学習をする際は、子どもが知らない言葉が出てきたときは、その都度、意味や使い方、ニュアンスなどを教えてあげるようにするとよいと思います。

【問六】傍線④直前のおじさんの話がつかめていれば正解できるはずですが、でも、“それまでは遊び相手になってくれていたお兄さんがもう遊んでくれなくなってしまった”というこの場面は、子どもにとって好ましい展開ではありません。そんなに悪い話ではないだろうという希望的解釈をして間違えてしまうということがあるかもしれません。

【問七】字数指定の書き抜き問題では、何を問われているかが脇に追いやられて指定字数で区切りのよい部分を探してしまうことがあります。そもそもどうということが答えなのかを考え、どのあたりに書いてあるかが分かった上で、指定字数になっているかを確かめるようにする必要があります。「おじさんは、いつもは子どもにむだぐちなんかきいてくれるいい人です」という部分が問いの答えになる部分で、そのうち、24字で抜き出すことを考えれば答えられます。なお、問二の「一文」は1つの文そのままのことで、問七の「部分」は文の途中まででもよいといううがちがいがいも押さえておいて欲しいと思います。

【問八】次の問九と合わせ、文章に描かれている場面を読み取れたか、登場人物の心情をつかめたかを問う重要な問題です。「安雄さんが、小さい太郎の方を見て、しかたがないように、かすかにわらいました。」ということから、安雄さんは遊びたい気持ちがあるのに遊ぶことができず不本意だと読んでしまったかもしれませんが、そのすぐ後に「またすぐ、じぶんの手先に熱心な目をむけました。」とありますので、一生懸命仕事に打ち込もうという気持ちを持っていることが分かります。「しかたがないように」というのは、自分の気持ちを表しているのではなく、太郎に対する「一緒に遊べないけれど、仕方がないことなんだよ」という気持ちの表れです。

【問九】かぶと虫をつかまえた太郎は、いつも遊んでくれる安雄さんのところにやってきたものの、安雄さんは遊んではくれませんでした。安雄さんはもう大人の世界に行ってしまったという場面を描いていますから、「(ウ)今日は遊ぶことができない」のではなく、「(エ)もう安雄さんと遊ぶことができない」が正解です。きっとハッピーエンドのお話だろうという思い込みがあつて(エ)を選べなかった人もいるかもしれません。自分ならどう思うか、自分はどう感じるかということではなく、文章に描かれていることから答えを選ぶのだということをお教える必要があります。

5

ピンタゾウガメのロンサム・ジョージを通して種の尊さを訴える、1300字の説明的文章です（本文は誉田進学塾が作成しました）。自分の知らないことを書いてあることが多いですが、設問の答えは本文の中にありますから、聞かれていることを正しく把握し、本文の中からその答えを探すということを意識して練習してください。

①ロンサム・ジョージについて → ②ガラパゴス諸島の説明 → ③ピンタゾウガメに起きたこと → ④ジョージの死 → ⑤まとめ と場面が変わっていきませんが、よくわからなくて難しいと思わず、読者がわかるように丁寧に説明してくれていると考えて前向きに取り組んで欲しいと思います。

〔問一〕前後のつながりを考えます。(1)「1 頭残らずいなくなったとされていたけれど、突然発見された」ということですから、「ところが」が当てはまります。(2)前の文の具体的な説明を述べていますので「それは」が当てはまります。(3)前の文は、ゾウガメが狩られることになってしまった理由になっていますので「そのため」が当てはまります。(4)前の文でゾウガメが激減したことが述べられており、ピンタゾウガメも同じだという文脈から、「もちろん」が当てはまります。ピンタゾウガメがゾウガメの一種であることがわからなかったり、「例外」という言葉の意味がわからなかったりすると戸惑うかもしれませんが、空欄と選択肢の数が同じですから、消去法で選ぶことができましたと思います。

〔問二〕空欄Aを含む段落に、推定 60 歳で発見されたことと、2012 年に死んだことが書かれています。ジョージが発見されたのは 1971 年ですから（6 ページ上段）、推定 60 歳で発見されてから 41 年後、つまり推定約 100 歳で死んだことがわかります。

〔問三〕6 ページ下段の『ガラパゴス諸島とは「ゾウガメの島」という意味で、何種ものゾウガメが生息していたことから、スペイン語でゾウガメを意味する「ガラパゴ」がつけられたと言われています。』というところが島の名前の由来です。「一文」という問題のときは、文頭から文末「。」まで、文をそのまま抜き出さなければなりません。

〔問四〕すぐ前にある「平然としている」という七文字を書き抜いてしまう間違いがあるかもしれません。指示語が指すのは、指示語の前の部分にあるのが普通ですが、何を指しているかを判断するには、まず指示語の後の部分を見なければいけません。

「これはかなり変わった行動だといえます」と書いてありますので、変わった行動とは何のことかを考えることになります。ゾウガメは人間を見かけても平然としている

のが普通なのに、ジョージは人間を見かけたときに「隠れようとした」ので、その行動がかなり変わっているというわけです。

【問五】まず、「ジョージの行動」が何を指すのかわかるかどうかです。ジョージの行動とは、問四で答えた「変わった行動」、すなわち「隠れようとしたこと」であり、その理由は7ページ上段に「ジョージの行動は、人間が敵だと学習していたからだったと考えられます」と書いてあります。ジョージが発見された時のことなので、(ア)を選んでしまった人がいたかもしれませんが、人間にとっては発見でも、ジョージにとってははじめてではありませんでしたので違います。傍線②に「理由がありました」とあるものの、その理由は少し離れたところにあり、少し難しかったかもしれません。

【問六】傍線③の少しあとに「ジョージの死によってガラパゴス諸島のゾウガメは十種に減少しました」とありますので、子孫を残すことができず、ピンタゾウガメが絶滅してしまったことがわかります。勝手な推測をせず、本文の中に答えの根拠を求めているかを確認してください。

【問七】筆者は自分の伝えたいことがあります、そのために、具体的な例をあげて文章を書いています。ですが、子どもはそのように考えるのは難しいものです。伝記やおとぎ話と同じように「カメの物語」と感じてしまうかもしれません。文章全体を通して伝えようとしていることがあるということや、それは文章の最後に述べられていることが多いということを知っておいて欲しいと思います。